



# 環境経営レポート

## 有限会社 ツルタ

活動期間 2024年4月～2025年3月



**Tsuruta**

2025年5月21日 作成

## 【1】環境経営方針

私たち有限会社ツルタは「顧客が満足する物づくり」を会社の方針とし、会社と社員の発展と地域社会への貢献を実現します。

この事業活動においては、地球環境の保全及び改善を目指し、法令の順守や地域のニーズに応えることはもとより、具体的な活動指針を下記に定め、豊かな環境を未来につなげるよう社員が一丸となって取り組みます。

- 1 全社員が環境改善に取り組む意識を持つよう環境教育を実施します。
- 2 二酸化炭素排出量の削減を図ります。
- 3 節水に努めます。
- 4 廃棄物の分別管理を徹底しリサイクル率を高めます。
- 5 改善提案活動を通じて、環境にやさしい工程作りを進めます。
- 6 グリーン購入を推進します。
- 7 EA21のシステムに則りPDCAのサイクルを維持し継続的改善を行います。

2019年9月1日

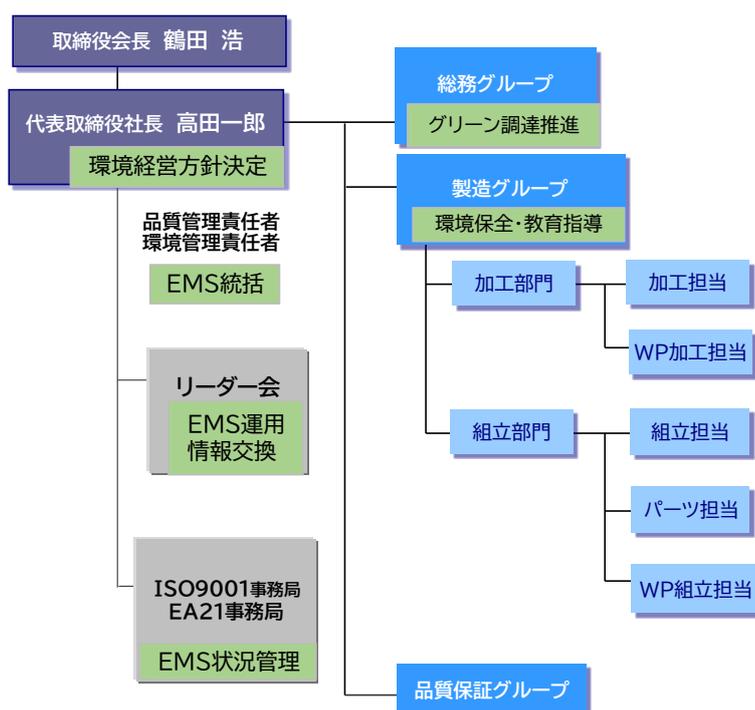
有限会社ツルタ  
代表取締役社長

高田 一郎

## [2] 事業の概要

- 1 事業所名及び代表者名
  - 事業所名 有限会社 ツルタ
  - 代表者名 高田 一郎
- 2 所在地
  - 〒439-0018
  - 静岡県菊川市本所 2623
- 3 責任者及び連絡先
  - 環境管理責任者 代表取締役社長 高田 一郎
  - 事務局担当 総務グループ 落合 弥生子
  - TEL 0537-36-1188
  - FAX 0537-36-2459
- 4 事業内容
  - 輸送用機器部品等の製造
  - 主にマシニングセンターによるアルミ部品の加工
  - カシメ機他による部品組立、キャブレター・ウォーターポンプ等の組立
- 5 事業規模
  - 単年度売上 約 2.6 億円
  - 従業員数 28 名
- 6 対象範囲
  - 当社の全組織、全活動を取り組みの対象とする
- 7 その他
  - 1999年 12月 ISO9001認証取得
  - 2007年 6月 エコアクション21認証取得

## [3] 環境管理体制

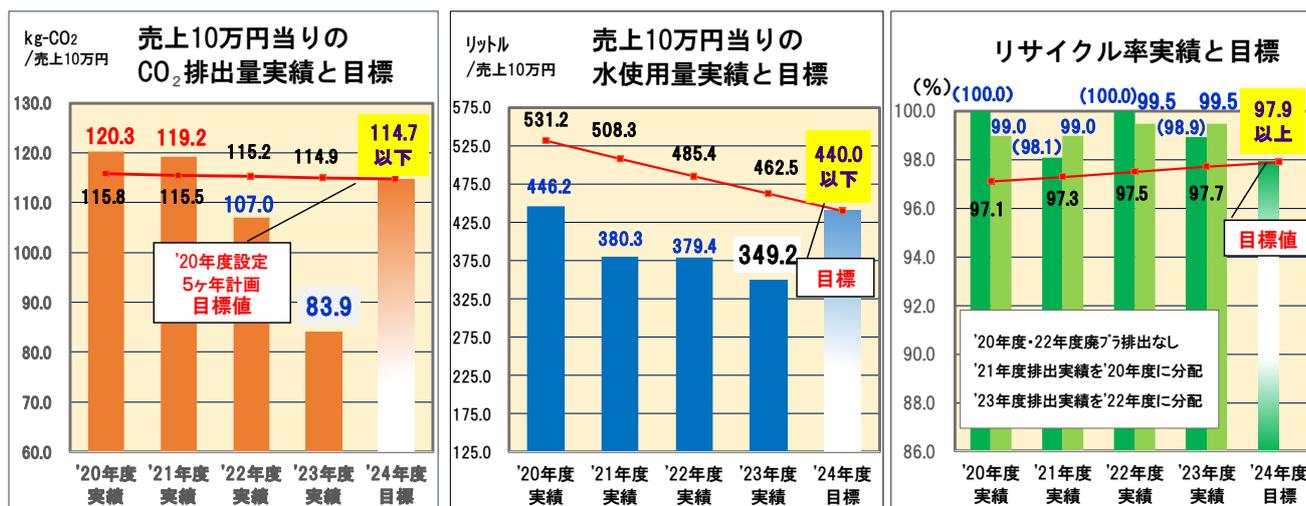


## [4] 環境目標と実績

### 1) 環境経営 2024年度 目標

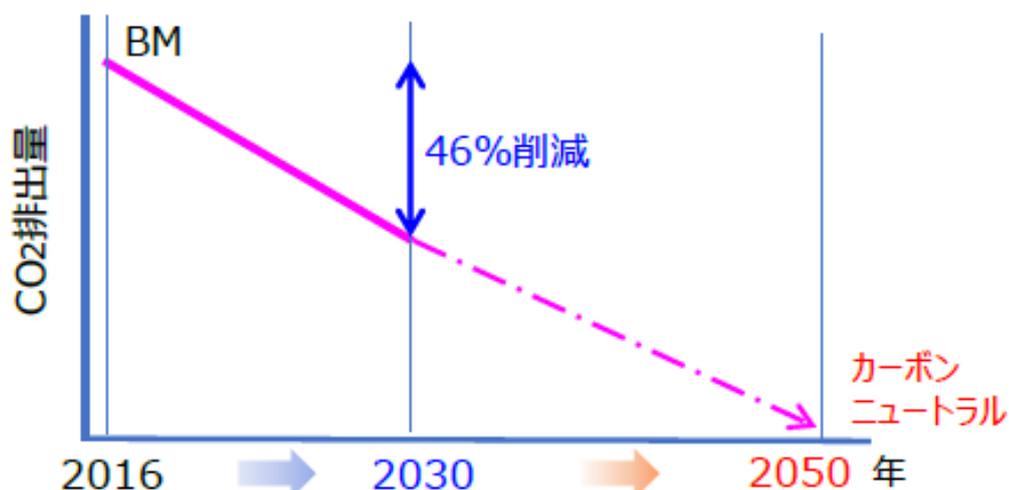
#### 環境目標

1. エコアクション 21 の年度目標（下記）達成
2. 見える！地元貢献活動
3. エコ教育の計画的実施と全員でのエコ提案



### 2) カーボンニュートラルに向けての長期目標(2023年度設定)

- ① **2030年度** 2016年度をBM(ベンチマーク)としてCO<sub>2</sub>排出量(原単位)を46%削減する。
- ② **2050年度** カーボンニュートラルを目指す。



### 3) 2024 年度目標と達成状況

#### ① 年度目標の達成

	2024 年度 目標	2024 年度 実績	達成度 評価
CO <sub>2</sub> 排出量: kg-CO <sub>2</sub> (売上 10 万円当り)	114.7 以下	84.2	達成 
水使用量: ℓ (売上 10 万円当り)	440.0 以下	397.9	達成 
リサイクル率: %	97.9 以上	97.6	未達 

CO<sub>2</sub> 排出係数は中期目標の効果を分かり易くする為 2018 年度報告時の中部電力ミライズ(株)値 0.480 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用して評価した。

- ② 見える！地元貢献活動 8 頁表の通り
- ③ エコ教育の計画的実施と全員でのエコ提案 8 頁表の通り

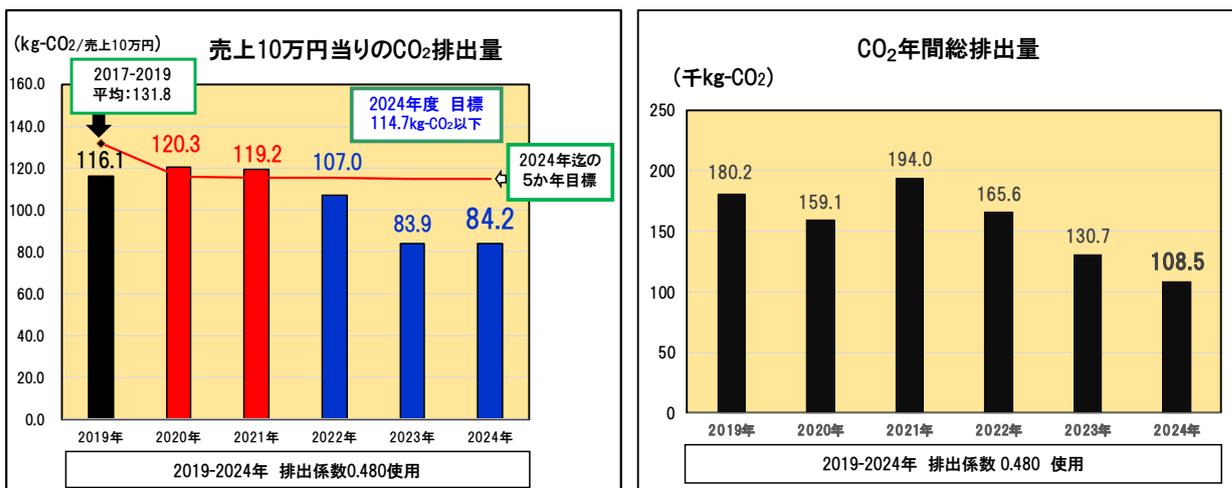
### 4) 環境への負荷状況

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
購買電力 kWh	316,649	388,491	330,036	258,881	215,110
水道使用量 m <sup>3</sup>	590	619	587	544	513
廃棄物総量 t	13.3	15.5	12.9	10.4	7.5
太陽光発電量 kWh	32,673	32,523	31,391	32,572	31,789

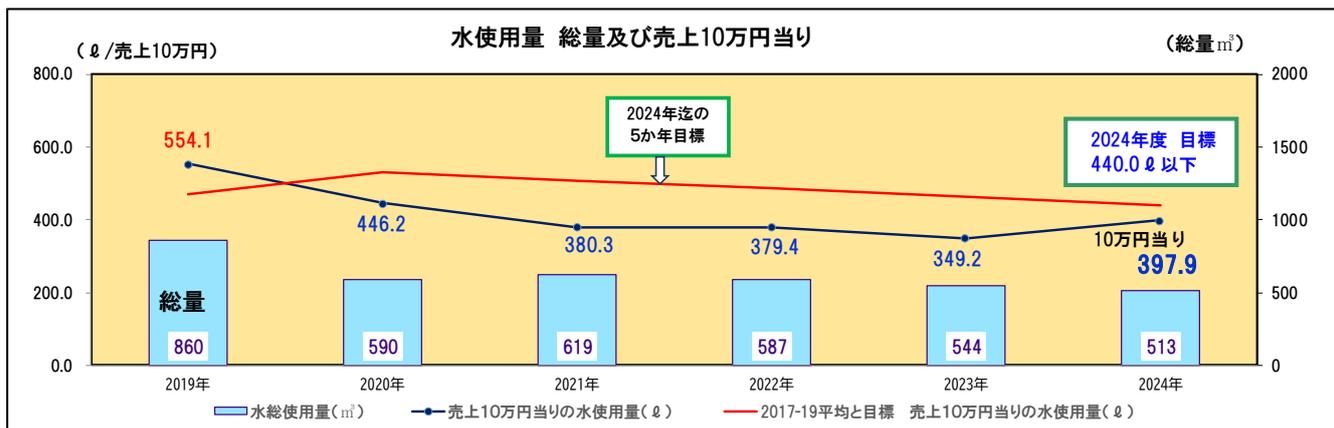
各負荷に対し、実際の排出量は稼働状況により変動するため、上記のように CO<sub>2</sub> 排出量、水使用量は売上10万円当りに換算して評価する。

## 5) 5か年目標(2020~2024年度)の実績、達成度

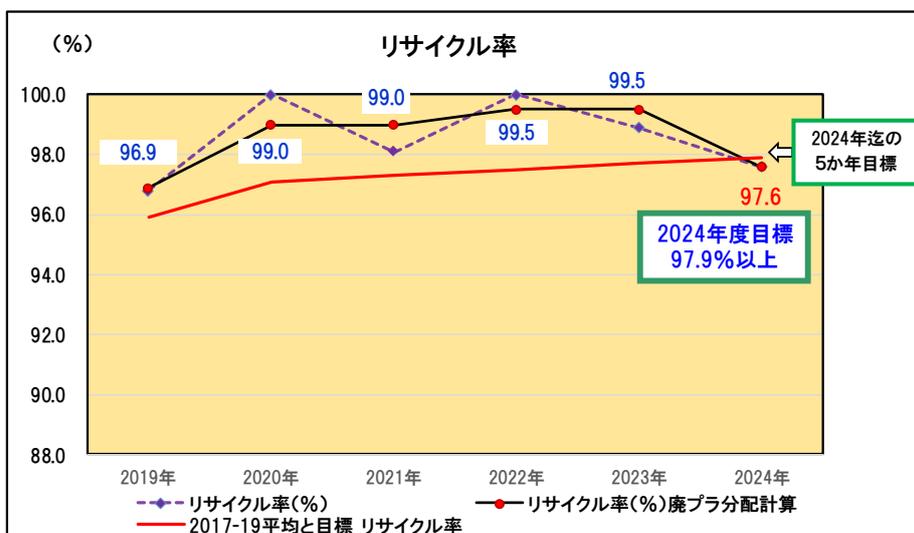
### 1-1 CO<sub>2</sub>総排出量の推移と売上10万円当りのCO<sub>2</sub>排出量推移



### 1-2 水総使用量の推移と売上10万円当りの水使用量の推移



### 1-3 リサイクル率の推移

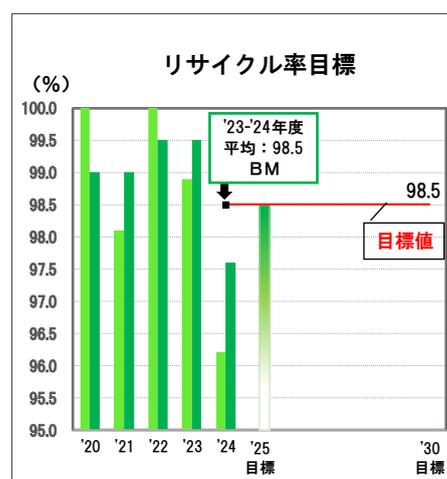
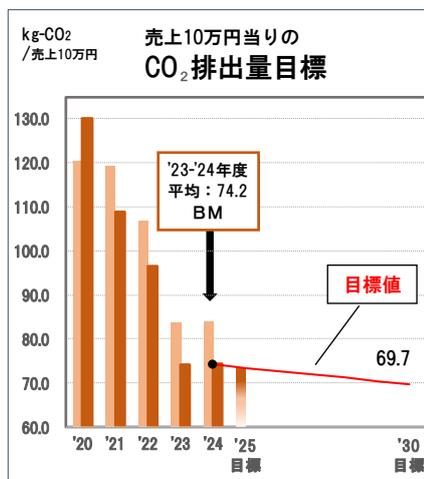


## 6) 今後(2025～2030年度)の中期目標について

製品価格変化による売上の変化と製品トレンドを考慮し、2023年度、2024年度の平均値をBM(ベンチマーク)とし2030年度迄の中期目標を以下の通り設定する。

- ① 二酸化炭素排出量削減 **BMに対して2030年迄毎年1%削減する。**  
BM算出の排出係数は、中部電力ミライズ(株)2024年報告値 0.421 を使用した。  
2025年以降、その年の電力契約社別CO<sub>2</sub>排出係数を使用する。  
長期的な社内効果は、固定係数を使用して確認を継続していく。
- ② 水使用量の削減 **BMに対し2%削減する。**
- ③ 廃棄物リサイクル率の向上 **BM以上を維持する。**  
取り組み当初より廃プラ全部を再資源不可品としてリサイクル率を算出していたが、実状に合わせ、再生不可品目を分別計量し、蛍光管(重量の2%)とを再生不可品とした算出方法に変更する。

年度	2023実績	2024実績	2023・24平均BM	2025	2026	2027	2028	2029	2030
売上10万円当り CO <sub>2</sub> 排出量：kg-CO <sub>2</sub> 以下 (排出係数)	74.1 (0.421)	74.3 (0.421)	<b>74.2</b> (0.421)	73.4	72.7	72.0	71.2	70.5	69.7
売上10万円当り 水使用量：ℓ 以下	349.2	397.9	<b>371.3</b>	370.1	368.8	367.6	366.4	365.1	363.9
リサイクル率： % 以上	99.5	97.6	<b>98.5</b>	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5



- ④ 改善提案を推進し、環境に優しい工程をつくる。
- ⑤ グリーン購入を推進する。

## [5] 取り組み状況と評価 次年度の取組内容

### 1) 2024年度 計画・取り組み状況・評価

下表の通り取り組んだ。

2024年度 [活動方針]	期間 2024/4~2025/3		作成 EA21事務局			
重点項目・具体的手段	目標値	担当	実施内容 (実績値他)		評価	次年度継続
[1] 年度目標値の達成						
1 売上10万円当りのCO2排出量	114.7kg/CO2以下	総排出量	108,487.52kg/CO2	84.2kg/CO2	●	継続
① 月毎のCO2排出量 冷暖房使用有無で 右記 目標値以下	有 118kg-CO2 無 110kg-CO2	全社員	最大 1月 94.4 最小 7月 87.0 平均92.1 最大 10月 83.9 最小 4月 65.5 平均75.8		●	継続
② デマンド管理による 時間当り電力使用量の抑制 警報による電力抑制	最大需要電力 148kW 以下	総務G 各L	夏 7月 145Kwh 冬 2月 警報あり 152Kwh		▼	継続
2 売上10万円当りの水使用量	440.0ℓ以下	総使用量	513m <sup>3</sup>	397.9ℓ	●	継続
① 雨水利用の継続		各L	ケリング <sup>®</sup> タワ-水槽、掃除の利用強化		●	継続
② 節水呼びかけ継続と不具合対策による節水		各L	手洗い・トイレの水、止水不具合は都度対応		●	継続
3 リサイクル率	97.9%以上	加工切粉減、廃 <sup>3</sup> ラ増、切削油交換なし	97.6%		▼	継続
① 分別強化継続 (再資源化の強化)		各L 全社員	分別の再指導、分別BOX区分の見直し実施		●	継続
② 回転在庫(有償支給材)の見える化 適正数再検討及び在庫調整継続		総務G 組立L	DF・エンジンホ <sup>®</sup> デー-マ <sup>®</sup> ネット・DH回転在庫再確認 上記適正数確認、在庫調整依頼		●	継続
③ 倉庫への持込品の分別		担当L	前年実施残りをリーダ <sup>®</sup> -会メバ <sup>®</sup> -で完了		●	—
4 環境目標に対する実績の 状況確認・把握	毎月	事務局 各L	リーダ <sup>®</sup> -会 (第3週環境会議) にて確認・把握。		●	継続
5 グリーン購入の推進 文具、副資材等購入品 のグリーン品調査	2回/年	総務G	10月末、リース車輛をGS車⇒EV車に入れ替え 使用している文具等のグリーン品を再調査		●	継続
6 緊急事態訓練 グループ 別緊急訓練の実施	1回/年	加工G 組立G	グループ 別訓練未実施 11/29 全社訓練実施 LINE WORKS未接続者の把握、接続確認実施		▼	継続
[2] 見える！地元貢献活動						
地域清掃活動	月交替/グループ	全社員	安全も考慮し蛍光色タスキを付け活動実施		●	継続
[3] エコ教育の計画的実施と全員でのエコ提案						
1 グループ別 エコ教育の計画的実施 事務局作成資料利用	年4回以上	事務局 各L	事務局 教育資料作成2回/4回 実施 (組立2回済 加工1回済)		▼	継続
2 全員でのエコ提案	1人1件以上	全社員	エコ提案6件 WP洗浄槽に蓋・内蓋を利用し加熱時間短縮 真空ポン <sup>®</sup> 設定圧を下げ消費電力抑制 他 エア漏れ 加工2件・組立1件		▼	継続

## 2) 実績評価取りまとめ

### [CO2 排出量の削減]

売上 10 万円当りのCO2排出量は目標値より大幅に削減でき、達成率は 136%であった。

前年度末より受注量が減少した為、6月以降は売上に見合った稼働時間を計画し、省エネ設備を優先的に使用することで電力使用量を抑制できた。

大きな電力を使用しない臨時の仕事も取り入れ売上増にも努めた。

### [水使用量の削減]

売上 10 万円当りの水使用量は目標値より削減でき、達成率は 110%であった。

トイレ・手洗い時の節水は継続して努め、水漏れは発見の都度早期に対策をとった。

雨水の利用を継続、総稼働時間が減った為、切削液の入れ換えを繰り越したことで水の使用量を抑制できた。

### [リサイクル率向上]

リサイクル率は目標値にとどかず達成率は 98.7%であった。

加工生産数減少によりスクラップの総量が減ってしまったことに加え、倉庫の長期保管品で再利用できないものを処分し、廃プラスチック排出量が増えてしまい、隔年処分から1年処分となってしまったことで達成できなかった。

## 3) 2025年度の取り組み内容

## 次の計画の通り取り組む

## 環境経営方針管理・実施計画

2025年度		期間	自 2025年4月1日 至 2026年3月31日	作成	2025年5月21日(水) E A 2 1 事務局		
活動方針		重点項目		具体的手段(プロセス)		目標値	主担当
1	（環境目標）  エコアクション21 年度目標値 の達成	No. 1	CO <sub>2</sub> 排出量 73.4kg/CO <sub>2</sub> 以下 (売上10万円当り)  2024年度実績 74.3kg-CO <sub>2</sub> (0.421) 84.2kg-CO <sub>2</sub> (0.480)	No. 1	月毎のCO <sub>2</sub> 排出量 右記目標値以下 (全社取り組み意識の向上) 2024年度平均値の1%減目標	冷暖房使用 有 80.5kg-CO <sub>2</sub> 無 66.1kg-CO <sub>2</sub>	全社員
				No. 2	デマンド管理による 時間当り電力使用量の抑制 及び 警報による電力抑制 2024年度平均値の1%減目標	最大需要電力 冷暖房使用 有 138kW 以下 無 113kW 以下	総務G 各リーダー
		No. 2	水使用量 370.1ℓ以下 (売上10万円当り)  2024年度実績 397.9ℓ	No. 1	雨水利用の継続	毎月	各リーダー
				No. 2	節水呼びかけ継続と 不具合対策による節水	毎月	各リーダー
		No. 3	リサイクル率 98.5%以上  2024年度実績 1年分廃プラ処分  96.20%	No. 1	分別(再資源化)の強化継続 加工→切粉 組立→金属 各自担当箇所チェック強化とフィードバック	意識強化 毎月第2週 (第3週環境会議 でフィードバック)	各リーダー 全社員
				No. 2	加工回転在庫(支給材)の見える化 3定見直し⇒在庫見える化 適正数検討及び在庫調整	8月迄	総務G 加工リーダー
		No. 4	実績の確認	No. 1	環境目標に対する実績の状況を リーダー会で確認、状況の把握	毎月	事務局 各リーダー
		No. 5	グリーン購入の推進	No. 1	文具、副資材等 購入品のグリーン品調査	1回/年	総務G
No. 6	緊急事態訓練	No. 1	グループ別 緊急訓練の実施	1回/年	加工G 組立G		
		No. 2	全社 防災訓練の実施			総務G	
2	全員参加 の 地元貢献	No. 1	全員参加の 地元貢献	No. 1	①会社前県道の除草・土除去 ②駐車場周りの除草 ③会社裏の水路の石除去 ④ゴミ拾い	月交替 グループ別	全社員
3	全員参加 の エコ提案	No. 1	全員参加の エコ提案	No. 1	1人1件以上のエコ提案 グループ別に強化月間を設定 電気・水使用量の把握	12月迄 1人1件以上	強化グループ⇒ 全社員

## [6] 環境関連法規への違反、訴訟等の有無に関して

以下の環境関連法規等について違反、訴訟等はなく遵守されていた。  
関係機関からの指摘、近隣の住民等から苦情はなかった。

騒音規制法 ・ 振動規制法 ・ フロン排出規制法  
廃棄物処理法 ・ 静岡県産業廃棄物適正化条例  
消防法(市条例) ・ 水質汚濁防止法 ・ 浄化槽法

## [7] 代表者による全体評価と見直しの結果

### 環境マネジメントレビュー：代表者の評価と見直し結果

今期は受注減となったがそれに合わせた工場・設備の稼働が出来たことでCO<sub>2</sub>排出量の削減を達成できた。

コスト削減＝エコの意識が浸透して来た。

人件費や製品単価の変化で、取り組み効果が見えづらくなったため、今後の目標設定、評価方法の見直しが必要。